

領域健康に関する調査の集計結果

The Collected Results from a Survey on the Field “Health”

松澤 俊行

1. はじめに

筆者は、浜松学院大学短期大学部で「健康（指導法）」の授業を担当している。この授業では、例年6月の教育実習直後に実習を振り返る課題の提出を求める。2019年には、その課題への回答から同授業の効果をより高める方法について考察し、参考文献中の「領域健康の教育実態に関する研究」にまとめた。

2020年度がその方法を実践に移す最初の機会となるはずだったが、コロナ禍により15回の授業の内前半7回は遠隔授業となり、さらに6月の教育実習の実施も見送られることが決まって、同授業は計画の大幅な変更を余儀なくされた。そこで、実習直後に課していた課題の質問項目を修正し、学生に実習前の心の準備を促しつつ、新たなデータを得ることとした。

2. 研究の目的と方法

本研究は、浜松学院大学短期大学部（以下、本学）の学生たちに領域健康の内容10項目中、どの項目に関する指導に興味を持っているかを質問し、回答を集計して学生が保育で何を大切にしようとしているかを読み取ることを目的とする。集計結果は一つの基礎データに過ぎないが、同領域に関連した授業の計画をする際に役立つものとなるはずである。

2020年度の「健康（指導法）」の授業は、各回を以下のテーマで進めた。例年とは一部進行を変えていることが分かるよう、2019年度と対比させて示す。前章に記した事情を受けて、第7回以降の内容と順序に違いが生じている。

表1：2020年度と2019年度の健康（指導法）の授業の構成

回	2020年度の各回テーマ	2019年度の各回テーマ
第1回	領域「健康」の内容	領域「健康」の内容
第2回	手指の操作の発達	手指の操作の発達
第3回	生活習慣の獲得	生活習慣の獲得
第4回	衛生的な生活習慣の形成	衛生的な生活習慣の形成
第5回	整理整頓、後片付け	整理整頓、後片付け

第 6 回	災害時の行動	災害時の行動
第 7 回	熱中症の症状と処置法	幼児期の食育、特にマナーに関する教育
第 8 回	事故への対応の事例紹介	運動遊びの指導
第 9 回	幼児期の食育、特にマナーに関する教育	実習の振り返り
第 10 回	傷や鼻血などの応急処置	健康に関する指導の事例紹介
第 11 回	運動遊びの指導	傷や鼻血などの応急処置
第 12 回	健康に関する指導の事例紹介 (1)	熱中症の症状と処置法
第 13 回	保育に関するエッセイの紹介	授業の復習と試験についての説明
第 14 回	健康に関する指導の事例紹介 (2)	事故への対応の事例紹介
第 15 回	エッセイの感想の紹介と最終課題	実習後の課題の振り返り

第 15 回の授業での最終課題は、解答時間 30 分の記述式小テストの形で行った。五つの問題の一つとして、次の質問への回答を求めた。なお、領域健康の内容 10 項目は、問題用紙に記載していたので、暗記する必要はなかった。ここでも 10 項目を記載する。

課題：

幼稚園教育要領に記される「領域健康」の内容 10 項目の内、自分がプロの保育者、あるいは子どもの保護者になった時に特に大切にしたい項目を 3 つ挙げ、それぞれなぜ大切にしたいか理由を記せ。

領域健康の内容 10 項目：

- 1 先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。
- 2 いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。
- 3 進んで戸外で遊ぶ。
- 4 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。
- 5 先生や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心を持つ。
- 6 健康な生活のリズムを身に付ける。
- 7 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする。
- 8 幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。
- 9 自分の健康に関心をもち、病気予防などに必要な活動を進んで行う。
- 10 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。

「健康（指導法）」は、2年生を対象とした専門科目であり、卒業のための必修科目でもある。2020年度は2年生114名全員が履修した。上記のように第15回の授業後半の時間帯に上記課題の回答の時間を取った。その回の授業を欠席した学生には、後日用紙を配布し、一週間以内の提出を求めた。

10項目それぞれについて、「大切にしたい」と回答した学生の数を集計した。次項にその単純集計の結果を示す。なお、その回に欠席し、かつ後日の課題提出期限にも間に合わず、別の追加課題によって成績を評価した学生が1名いた。そのため、集計対象は全履修者から1名少ない113名となっている。

3. 課題への回答の集計結果と考察

表2が集計結果である。「2020年調査」が本研究における集計を指す。

2019年に筆者は「実習で目にした健康に関わる活動の工夫や保育者の配慮を挙げ、それが領域健康の内容10項目の何番に当てはまるかも記入すること」という教育実習直後の課題に対する回答の集計結果をまとめた。（参考文献を参照。）その集計では、2018年度と2019年度の合計申告者数を項目番号ごとに示している。参考までに、その申告者数と全履修者に占める申告者の割合、数値の大きさの順も「2019年調査」として同じ表に示す。

表2：2020年調査（実習前に実施）と2019年調査（実習後に実施）の集計結果

項目	2020年調査（対象者113名）			2019年調査（対象者249名）		
	回答者数	割合	順位	申告者数	割合	順位
1	44名	39%	2位	54名	22%	8位
2	38名	34%	4位	97名	39%	1位
3	35名	31%	6位	75名	31%	3位
4	30名	27%	7位	76名	31%	2位
5	44名	39%	2位	61名	25%	6位
6	36名	32%	5位	23名	9%	9位
7	30名	27%	7位	65名	26%	4位
8	7名	6%	10位	18名	7%	10位
9	12名	11%	9位	64名	26%	5位
10	60名	53%	1位	35名	23%	7位

2020年調査の集計結果からは、平均の割合となる30%に近い項目がほとんどであることが分かる。多くの項目が平均に近いということは、大切にしたい項目は回答者によってそれぞれであり、ほどよく選択が分かれているということである。一方で、それに当てはまらない項目もある。項目8と項目9は30%を大幅に下回る割合に、項目10は30%を大幅に上回る割合になっている。項目8は「場を整えること」に関する項目で、項目9は「病気

の予防」に関する項目である。いずれの項目の内容も授業の中で折に触れて話題にするが、印象に残らず、他の項目よりも後回しにされやすいということだろうか。2020年度前期の授業はコロナ禍の真ただ中で行われており、項目9がこの割合にとどまったことは意外に映る。対して、「安全」に関する項目10は半数以上の学生に重視されている。第8回の「保育中の子どもの怪我が原因で園へのクレームが発生し、その対応に失敗、苦慮した事例」を紹介した授業の影響もあるのかもしれない。理由はともかく、子どもの安全に気を付けようとする学生が多いことは頼もしい。

2020年調査と2019年調査は質問項目や回答方法、集計方法が異なるため、単純な比較はできない。とはいえ、類似点や相違点からは示唆を得ることができる。例えば、両調査の結果を見比べると「実習前と実習後では、多くの者に意識される項目が変わるが、項目8は実習前も実習後も意識されにくい」といった傾向が感じ取れる。この点について、さらに何らかの検証を加えれば、興味深い事実が浮かび上がるかもしれない。

4. 今後の課題

今回は2章に記した方法によって集計した結果のみを示した。この結果は、今後の授業の構成や研究の計画を考える上でのヒントになると思われる。

前章の表では、二つの調査の結果を並べて示した。両調査の質問と対象学生が異なるため、今回は参考として比較するための併記にとどまっている。2021年度以降は、同じ学生に対して実習前に2020年度と同様の課題の提出を求め、実習後に2018年・2019年と同様の課題の提出を求めることも考えたい。それらへの回答の集計と分析によって、実習の前と後で本学学生の領域健康の内容10項目へのとらえ方がどう変化していくかを明確にできる可能性がある。また、実習前に内容10項目を強く意識させる機会を持つことが実習中の学びを深めることへつながり、さらに実習後に振り返りの機会を設定することがその深まった学びを定着させることへつながる可能性も考えられる。

2019年調査の報告でも課題として挙げたが、学生が申告した番号の適否の判断や、集計方法にも課題が残る。ヒントを得ただけに終わらせず、その先の発展的研究や学生指導へと結び付けられるよう、省察を続けなければならない。

5. おわりに

本稿中の表では、筆者自身が2018年から2019年にかけて行った調査の結果も示した。その結果を最初に報告した論文(松澤, 2020)では、「幼児教育の現場では領域健康の内容10項目全てについて地道で着実な指導が行われている」と記したが、今回も同様の想いを持った。今回あらためて認識された課題の解決を図りながら研究を進め、「領域健康の内容10項目全てについて地道で着実な指導ができる保育者」を育成するための効果的な授業の方法を模索し続けたい。

付記

本学の学生たちの授業や実習への取り組みは、いつも筆者に新たな発見と刺激を与えてくれる。彼ら、彼女らにこの場を借りて感謝の意を表したい。

参考文献

松澤俊行「領域健康の教育実態に関する研究」 浜松学院大学短期大学部研究論集第 16 号, 2020 年, pp39-46

幼稚園教育要領（文部科学省 平成 29 年 3 月告示）